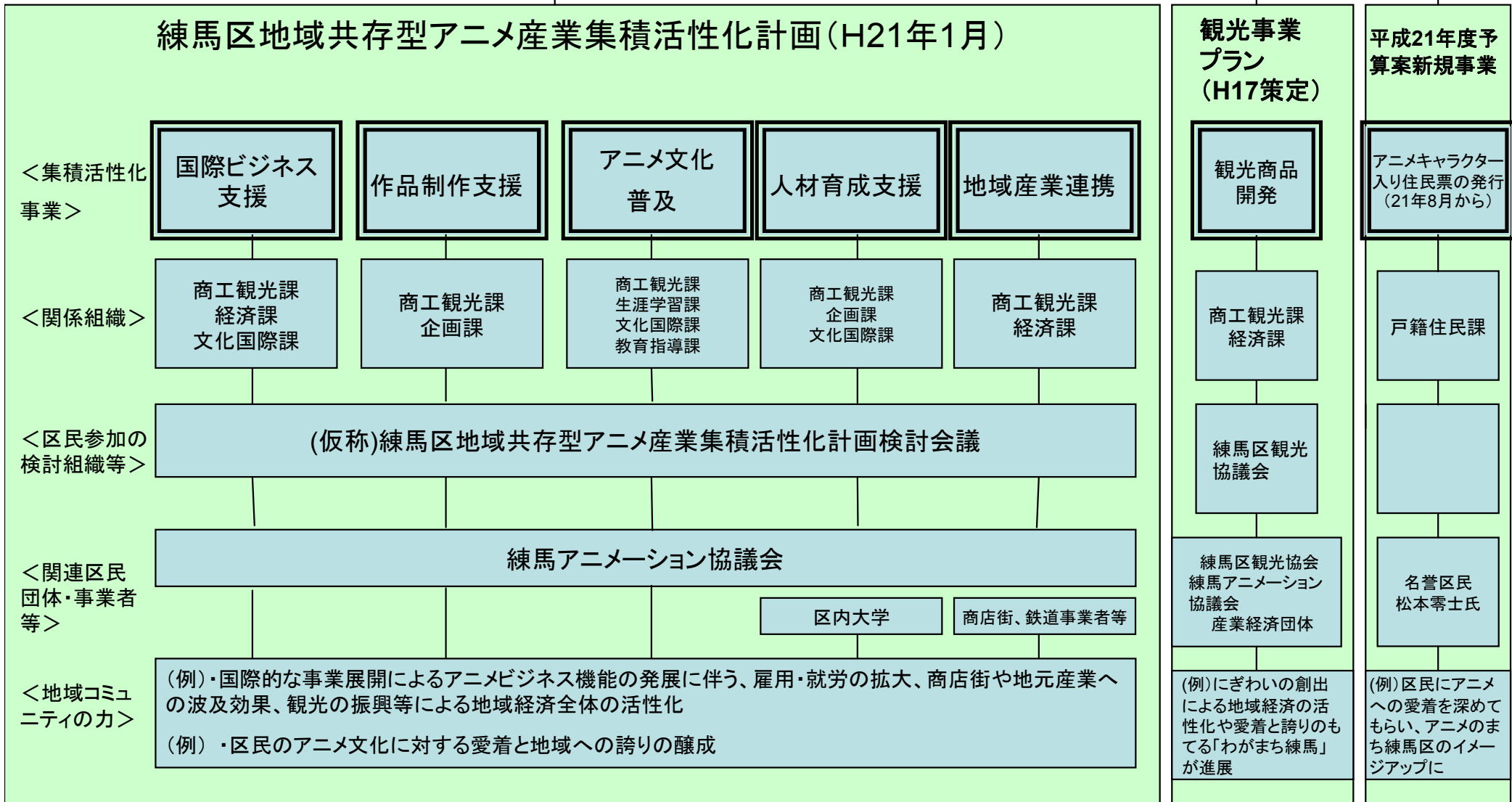


(仮称)ねりま未来プロジェクトその2<まちの魅力を引き出し、活力を高める>検討資料(アニメ①)

まちの魅力を引き出し、活力を高める



(仮称)ねりま未来プロジェクトその2<まちの魅力を引き出し、活力を高める>検討資料(アニメ②)

練馬区地域共存型アニメ産業集積活性化計画(H21年1月)の計画内容

集積活性化事業計画	(1) 国際ビジネス支援 ・海外進出に向けた市場調査と参入手法の検討 ・国際的見本市への出展支援 ・フランス・アヌシー市と練馬区の産業交流 ・国際アニメビジネスセンターに関する研究	(2) 作品制作支援 ・スタジオの定着・区内誘致手法などの研究 ・アニメスタジオ等企业集積に向けた施設の整備 ・録音スタジオなど共同施設の整備に関する支援	(3) アニメ文化普及事業 ・ねりたんアニメカーニバル ・ねりたんアニメキャラバン(出前講座) ・アニメアーカイブスの製作 ・(仮称)ふるさと文化館アニメコーナー ・練馬アニメモニュメントの整備 ・アニメ制作や作品を紹介するアミューズメント施設整備支援 ・アニメ制作現場の見学コース整備	(4) 人材育成支援 ・ねりたんクリエイターズアワード ・アヌシー市と練馬区のクリエイター・スタジオ交流 ・アニメ・コンテンツ産業に関する専門学校等の誘致	(5) 地域産業連携事業 ・商店街事業におけるアニメの活用 ・鉄道会社との連携による地域活性化 ・練馬区独自アニメキャラクターの開発
関係組織	商工観光課 経済課 文化国際課	商工観光課 企画課	商工観光課 生涯学習課 文化国際課 教育指導課	商工観光課 企画課 文化国際課	商工観光課 経済課
区民参加の検討組織等	(仮称)練馬区地域共存型アニメ産業集積活性化計画検討会議				
関連区民団体・事業者等	練馬アニメーション協議会	練馬アニメーション協議会	練馬アニメーション協議会	練馬アニメーション協議会 区内大学	練馬アニメーション協議会 商店街、鉄道事業者等

用語説明

<p>練馬区とアニメ</p>	<p>練馬区は、日本初のカラー長編アニメ映画「白蛇伝」(昭和33年)や30分連続テレビアニメ「鉄腕アトム」(昭和38年～)が製作された日本アニメ発祥の地である。また現在も、区内に日本のリーディング企業である東映アニメーションを始めとする94社が所在しており、日本一の集積となっている。なお、全国にはアニメ関連会社が626社あり、うち東京都内に497社あるとされている。練馬区におけるアニメ産業の売り上げは、概算で300億円と推定される。この数字は、日本のアニメ産業の約1割を占めている。</p> <p>アニメ制作会社が練馬区を中心に発展したことにより、クリエイターも多く区内に居住している。日本のアニメを代表する大塚康生氏や高畑勲氏は区内在住である。また区内には、従来より多くの人気漫画家が居住しており、故手塚治虫氏、故石ノ森章太郎氏は在住歴がある。さらに松本零士氏、ちばてつや氏など日本を代表する多くの区内居住の漫画家が、現在も活躍中である。</p>
<p>練馬アニメーション協議会</p>	<p>平成15年、練馬区や東京商工会議所練馬支部の積極的な働きかけにより区内のアニメ関連事業者が集結して、練馬アニメーション協議会が発足した。会員数は50社を超え、平成19年12月には、合同会社(LLC)練馬アニメーション協議会を設立している。</p> <p>協議会では、毎年東京国際アニメフェア等への出展を行っている。また、独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)の地域間交流支援(RIT)事業を足がかりとして、フランス・パリやアヌシーでの国際ビジネスにも取り組み、新たなビジネスの拡大を図っている。さらに、区のアニメ事業にも協力し、イベントの企画運営やアニメ資源情報番組の製作を行っている。</p>
<p>(仮称)地域共存型アニメ産業集積活性化計画検討会議</p>	<p>名誉区民で漫画家の松本零士氏のほか、アニメ事業者、区関係職員等11名の委員により構成する検討会議(平成20年9月～21年1月設置)</p>
<p>フランス・アヌシー市</p>	<p>毎年6月に、アニメーションの国際映画祭を開催している。1960年カンヌ映画祭からアニメーション部門を独立させ、設立された。アニメーション映画祭としては世界最大規模を誇り、同時に見本市(フィルムマーケット)が開催される。</p> <p>昨年11月には、アヌシー市から、ジャン＝リュック リゴー市長をはじめとする訪問団5人が練馬区を訪れ、志村豊志郎練馬区長との意見交換や区内アニメスタジオの視察などを行った。</p>
<p>ねりたんアニメカーニバル</p>	<p>「ねりたんアニメ」とは、「練馬区で誕生したアニメ」を略したもの。「アニメのまち 練馬区」を全国に向けて発信し、区の特徴であるアニメーション産業の振興を図るために、平成19年から開催されている。昨年は、としまえんを会場に11月22日から24日の3日間行われた。</p>
<p>ねりたんアニメキャラバン(出前講座)</p>	<p>平成21年度新規事業。区内小学生を対象に、学校への出前授業を行うため、検討を開始する。練馬区が誇る地場産業であるアニメ産業の概略を説明するとともに、実際にアニメ製作の体験等を行い、練馬区のアニメを深く理解してもらうようにする。</p>
<p>アニメアーカイブス</p>	<p>平成21年度充実事業。練馬区とゆかりのある作品や制作スタジオ、漫画家、クリエイター等を紹介するアニメ情報番組を製作し、放映および発信する。ライブラリーの作品は、専用のウェブサイトで動画配信によって世界中で視聴可能なものとする。</p>

用語説明

<p>(仮称)ふるさと文化館アニメコーナー</p>	<p>平成22年3月、石神井公園に隣接する区立石神井プール敷地内に開館する予定の(仮称)ふるさと文化館には、アニメコーナーを設け、練馬区生まれのアニメや区内在住の漫画家の紹介等を通じて、アニメ文化の普及に努めるとともに、観光拠点の一つとする。</p>
<p>ねりたんクリエイターズアワード</p>	<p>優れたアニメクリエイターの発掘・育成を目指してコンテストを実施する。脚本部門優秀賞受賞者に対しては、練馬アニメーション協議会がプロモーション映像を製作し、実製作への橋渡しを行う。(平成19年度から実施)</p>
<p>コンテンツ産業とアニメ産業の関係</p>	<p>コンテンツ産業とは、映画産業・音楽産業・放送業界、アニメ産業、ゲーム産業・出版業界・キャラクタービジネスなどの様々な産業の総称である。アニメ産業は、従来テレビや映画を中心のビジネス分野であったが、映像創造するキャラクタービジネスやビデオ・DVDの普及、携帯電話の普及などメディアの進化・拡大により、コンテンツ産業の中核として着目されている。なお、日本におけるコンテンツ産業全体の市場は、約14兆円。うち、アニメ産業は2,584億円とされているが、「アニメのコンテンツを使った付随産業」といえば、キャラクターをデザインに活用した衣料品やおもちゃ、パッケージに使われた食品の売り上げ(=経済効果)は、これには含まれていない。</p>
<p>練馬区観光協会</p>	<p>まち歩き観光に関するこれまでの区や民間の取り組みをさらに発展させ、にぎわいの創出による地域経済の活性化と愛着と誇りもてる「わがまち練馬」の実現をめざし、練馬産業連合会、練馬区商店街連合会、JAあおば、西武鉄道、としまえんなど産業経済関係団体、観光事業者など17団体により設立。練馬区にちなんだ商品(ねりコレ)事業、観光ガイドマップの作成や観光案内所の運営などを行う。</p>